コロナ禍における
地域福祉活動事例集

～松阪での取組みを紹介します～



コロナ禍でも！
私たちの地域でこんな活動をしました！

社会福祉法人　松阪市社会福祉協議会

コロナ禍でも！
私たちの地域でこんな活動をしました！

ひと 人 ば 場 ネット

嬉野マルシェ・作品交換展示会

コロナ禍によって減少してしまった活動や発表の機会を応援するため、嬉野中学校・嬉野地区福祉会・松阪社協嬉野支所が実行委員会を立ち上げ企画実施しました。

実行委員会には、嬉野中学校生徒会の生徒も積極的に参加。当日は嬉野にちなんだ商品（中学校、就労継続支援B型事業所、おおきんポイント事業協力店）の販売と作品交換展示会のキックオフを実施し予想を上回るたくさんの方に来場いただき、大盛況のうちに終えることができました。



コロナ禍での工夫

密閉 受付と焼き芋の配布を除き、屋内での実施でした。開放できる窓やドアは全て開放し、常に換気を行いました。

密集 密を避けるため、会場内は一方通行としメイン会場の密度が高くなりそうな時には、入場制限を行いました。

密接 室内の販売ブースには、消毒液と飛沫飛散防止パネルを設置しました。

スタッフ・来場者共に、検温・手指消毒の実施と名簿記入（名前・住所・電話番号）を行いました。また、２週間以内に発熱や風邪症状がある方の来場は止めていただけるよう開催チラシに記載し、呼びかけをしました。

あかねちゃん



嬉野中学校
村上鈴華さん
（3年生）作

主催者より

「コロナ禍でこれだけ大きな企画を本当に実現できるのか」迷いながら準備を進めていたというのが、正直な気持ちです。でも、たくさんの方のご理解・ご協力のおかげで成功させることができました。特に嬉野中学生には、事前準備のチラシ作成や出店依頼、当日にも各ブースを担当してもらい、積極的に来場者の方へ声をかけたり説明をしたりする姿がとても頼もしく大きく見えました。今回の企画は、福祉課題解決のために実施できただけでなく、中学生と共に成長できた企画です。

嬉野地区福祉会

詳細情報

主催	松阪市嬉野地区福祉会･松阪市立嬉野中学校･松阪社協 嬉野支所
助成金の種類	ふれあい活動（事業費の一部に赤い羽根共同募金配分金を充当）
開催日･場所	令和3年11月28日（日）嬉野社会福祉センター 作品交換展示会は、嬉野社会福祉センターと嬉野中学校において～12月21日
参加人数	11月28日来場者数 309人（うちスタッフ58人）

コロナ禍でも！ 私たちの地域でこんな活動をしました！

ば 場 ネット

２人くらしのつどい

80歳以上の２人くらし世帯を対象に、長寿をお祝いする事業です。コロナ以前は昼食をはさみ１日お楽しみいただく事業でしたが、飲食による感染リスクを低減させるため昼食会を取りやめ「健やか薬局　中川店」管理栄養士考案の手作りお弁当をお持ち帰りいただきました。

半日のスケジュールではありましたが、ボランティアと宅老所のコラボによる演奏・手品・第二地域包括支援センターの健康体操・“とまとーず”による交通安全のお話など楽しく過ごしていただくことができました♪







コロナ禍での工夫

- 密閉 開放できる窓やドアは全て開放し、常に換気を行いました。
- 密集 例年より定員数を半減させ密集しないよう配慮しました。
- 密接 １世帯１テーブルとし、各テーブルの間隔を広く保ちました。

スタッフ・来場者共に、検温・手指消毒の実施と名簿記入（名前・住所・電話番号）を行いました。また、例年は民生委員協力のもと参加者を募っていましたが、コロナ禍で民生委員の訪問活動が通常通り行えないことから、自治会内にチラシを回覧してもらい参加者を募りました。



主催者より

半日での開催方式に変更して２回目の開催となります。１人でも多くの方のご長寿をお祝いしたい気持ちが本来ではありますが、まずはみなさんの安全・安心第一！
短い時間で少人数での開催になりましたが、楽しいひと時を過ごしていただけて嬉しいです。来年も元気にお会いできることを楽しみにしています♪

嬉野地区福祉会

詳細情報

主催	松阪市嬉野地区福祉会
助成金の種類	要配慮者等食事サービス
開催日・場所	令和3年11月26日（日）嬉野社会福祉センター
参加人数	55人（うちスタッフ35人）

コロナ禍でも！ 私たちの地域でこんな活動をしています！

場 ★のびのびBABY・KIDSひろば★

未就園児とその保護者を対象に、育児の息抜きや交流の場づくりを目的に１回/月開催しています。★のびのびBABY・KIDSひろば★開催日は終日、和室を子どもたちと保護者のために開放。午前中には、ボランティアの協力による月替わりの行事を開催しています。毎月、継続して遊びに来てくれる子も♪開催日は、子どものたちの元気な声でにぎわいます！

時には、泣き出してしまったり、お部屋の外に行ってみたくなったり。お子さんのペースに合わせて安心して過ごせる“居場所”の１つを目指しています。



デイサービスのおばあちゃんの折り紙を使って絵本を作ったよ♪

コロナ禍での工夫

密閉 開放できる窓やドアは全て開放し、常に換気を行っています。

密集 定員数をお部屋の収容人数の50％を超えないように設定。事前申し込み制にし、来場人数が収容人数内であることを確認しています。

スタッフ・来場者共に、検温・手指消毒の実施と名簿記入（名前・住所・電話番号）を行っています。使用するおもちゃは、毎回消毒しています。
また、緊急事態宣言やまん延防止重点措置が発令された場合、その他感染拡大状況に応じて中止をしています。
マスクの着用は大人の方のみお願いしています。



主催者より

★のびのびBABY・KIDSひろば★を始めて２年が経とうとしています。「with コロナ」という言葉が出始めた R3年7月に事業を開始しコロナ対策をしながら、どのように事業を実施できるか考えて運営しています。
感染拡大により中止をすることもありますが、子どもたちの成長を保護者の方と一緒に見守ることができ嬉しく思います。

嬉野地区福祉会

詳細情報

主催	松阪市嬉野地区福祉会･松阪市社会福祉協議会 嬉野支所
助成金の種類	子どもの居場所づくり（事業費の一部に赤い羽根共同募金配分金を充当）
開催日･場所	毎月第一水曜日･ 嬉野社会福祉センター ※祝日の場合はお休み
参加人数	10組･20人/回

コロナ禍でも！ 私たちの地域でこんな活動をしました！

ひと 人 ば 場 ネット

Zoomでつなぐボランティア活動





2回目の活動は、複数事業所とつなぎ、事業所間の交流もできました！

「ボランティア活動をしたくても受入れ先がない」「施設利用者に楽しんでもらいたいけど、受け入れることが出来ない」というボランティア・施設職員双方の声により、Zoomを活用した活動を行いました。

リアルタイムの掛け合いや、音楽に合わせた手拍子など、Zoomならではの楽しい時間を利用者のみなさんに過ごしていただくことができました。

コロナ禍での工夫

密閉

開放できる窓やドアは全て開放し、常に換気を行いました。

Zoomを活用することで直接的な交流を避け、感染リスクを最小限に抑えることができました。



施設利用者より
久しぶりのボランティアによる慰問で、開始前から楽しみにしていた。みんなで一緒に歌が唄えて楽しかった。



施設職員より
対面での演奏ではないため配慮が必要な方はみえたが、手拍子や合いの手・歌を口ずさみ楽しんでいただけた。

ボランティアより
久しぶりに、たくさんの方の前で演奏ができて嬉しい。直接、お会いできない寂しさはあるがZoomを活用することで、お互いに感染リスクを心配しなくて良いので、安心して演奏することができた。



詳細情報

主催	松阪市社会福祉協議会 嬉野支所
必要な物品	インターネット環境、パソコン、Zoomライセンス・カメラ、スピーカー、プロジェクター、マイク、スクリーン
開催日・場所	1回目：7月8日（木） 2回目：12月7日（火） いずれも40分程度。 ボランティアの演奏場所は嬉野社会福祉センター
参加ボランティアと事業所	1回目 津軽三味線&和太鼓チーム ⇔ 嬉野デイサービス・生活介護 2回目 トリヴィオン（沖縄三線） ⇔ 社会福祉協議会嬉野支所（デイサービス・生活介護） 三雲支所（デイサービス）、松阪支所（ふっきー体操くらぶ）

コロナ禍でも！
私たちの地域でこんな活動をしました！

小学生から高齢者に年賀状を描いて送る取組み

ひと 人 ネット

第一小学校　児童の皆さんに、75歳以上一人暮らし・80歳以上二人暮らし高齢者の方に向けて年賀状を描いていただき、お送りする　という取組みです。







★事前に、児童の皆さんに年賀状やペン等をお渡しし、素敵な絵を描いていただきました。

★宛名は、役員で集まり、1時間程で書き上げました。初めての取組みなので、民生委員さんに高齢者の方に周知のお手紙を渡していただきました。

会長より一言
(*^_^*)

コロナ禍で、行事が中止になる中、助成金を活用してできる取り組みを会で検討しました。第一小学校も前向きに検討下さり、実施へと至りました。
年賀状を受け取った高齢者の方々から、「嬉しくてありがたかった」というお言葉や、子どもたちへ心温まる返事や励ましも届いているそうです！

主催	第一福祉会（松阪中央住民協議会　健康福祉部会）
助成金の種類	歳末たすけあい地域福祉活動推進助成
開催日	令和3年11月～12月
参加者	第一小学校児童、民生委員児童委員、 第一福祉会（松阪中央住民協議会　健康福祉部会）役員

コロナ禍でも！
私たちの地域でこんな活動をしました！



人場ネット

飯南地区福祉会　防災フェスタ

～高齢者のための日頃の備えを楽しく学びましょう～と題し飯南産業文化センターで開催
①防災対策課による防災講演会「高齢者の日頃の備え」 ②お鍋とビニール袋で炊飯体験
③非常持出袋・非常食の展示　④地域の絆づくり
◎配食ボランティア“たけのこの会”手作り弁当付き
【対象者】飯南地区に在住する７０歳以上の一人暮らし高齢者及び７５歳以上の高齢者世帯・飯南地区民生委員児童委員協議会・飯南地区の住民自治協議会
【目的】自分や家族、地域の人々が安心安全に暮らしていけるまちづくりができるように防災意識を高めることを目的とする。また、住民自治協議会と飯南地区民児協の参加により交流を深め、いざという時に必要な“絆づくり“と ”共助”の防災について地域ぐるみで考える機会とする。



★工夫したこと
①高齢者のつどい・福祉まつり・いいなぁこの町交流会が中止になった為、コロナ禍でも行える行事を企画
②会場を産業文化センターに変更！
ソーシャルディスタンスを取り感染防止対策！！
③グループ分けし少人数にして体験ブースを移動
④会食を“たけのこの会”の持ち帰り弁当に変更



コロナによって、昨年は行事が何も出来なかったが、工夫し対策を取って行うことで行事を開催することが出来ました。
参加者さんにも大変喜んでいただきました。
防災の取組みは今まで出来ていなかったのでこれを機会に毎年行いたいと思います。



飯南地区福祉会
稲葉会長

詳細情報

主催	飯南地区福祉会 （参加協力：飯南地区民生委員児童委員協議会）
助成金の種類	小地域福祉活動助成金 （地域ふれあい活動・要配慮者等食事サービス）
開催日	令和3年11月24日（水）
参加人数	80人（うちスタッフ 30人）

コロナ禍でも！
私たちの地域でこんな活動をしました！

東黒部配食サービス

ひと 人　ネット

80歳以上の一人暮らし高齢者の方や見守りが必要な方を対象に、地域の『まごころ調理部』のみなさんによる手作り弁当を、自治会長さん・民生委員さんがお届けする活動です。

お弁当には、東黒部小学校の子ども達が思いを込めて書いた手紙が添えられます。

地域のあたたかい思いが食を介して繋がる活動です。



コロナ禍での工夫

・作り手の人数を半分に減らした。
・健康管理、手袋着用、こまめな消毒の徹底。
・短時間での実施。

『まごころ調理部』より
手作り弁当の配食をしてもよいか何度も検討しました。「見守りを必要とされる方が、お弁当を待っている。とりあえずやってみよう！！配り手、作り手も　元気であればやっていこう！」という思いで取り組んでいます(#^^#)



詳細情報

主催	東黒部住民自治協議会 福祉部
助成金の種類	要配慮者等食事サービス
開催日・活動場所	年10回（4、1月除く）・東黒部地区ふれあい会館
参加人数	18人

コロナ禍でも！ 私たちの地域でこんな活動をしました！

場（ば）

子ども教室



家庭と地域をつなぐ活動として、子どもの教育をサポートする事業

夏休み（毎年内容を検討する）、冬休み（将棋教室）に実施されます。
夏休みは松阪市在住の講師を招いて絵画教室、冬休みは地域の方を講師として将棋、折り紙教室が開催されました。



対象物としたカブトムシ、野菜、花は、子ども達にプレゼントされました(#^^#)



コロナ禍での工夫

・蜜を避ける為、会場である漕代地区市民センターのフロアーを分けて実施した。
・検温、手指消毒を徹底した。



主催者より

子ども達が喜んでくれるよう毎年企画を考えるのは一苦労ですが、子ども達のありがとうの笑顔が励みになります。

館長　田中隆幸

詳細情報

主催	漕代まちづくり協議会
助成金の種類	地域福祉教育活動
開催日	年2回（7月、12月）
参加人数	各55人（うちスタッフ 約7人）

コロナ禍でも！
私たちの地域でこんな活動をしました！

在宅介護者の集い(茅広江地区)

場（ば）

在宅で介護をされている方々を対象に、「コロナ禍における在宅介護について」をテーマにした講演会を開催しました。
当日は約20名の方が参加し、正しく感染予防対策をして安心して在宅で介護をしていただくヒントとして、「グループホームいいたか」での感染経路の遮断や感染源の排除方法等を学び合いました。





コロナ禍での工夫

- **手指消毒・会場の換気**
  常に換気をしました。
- **収容人数の制限**
  定員数を、お部屋の収容人数の50％を超えないように設定しました。
- **事前申し込み制**
  来場人数が収容人数内である事を確認しました。
- **ソーシャルディスタンス**
  間隔を空けて着席していただきました。
- **弁当は持ち帰りに**
  コロナ禍になる前は、会場内で食事をしていただいていましたが、今回はお弁当を持ち帰ってもらいました。

主催者コメント

在宅介護は休みがなく大変な上、コロナの拡大で尚一層大変になりました。感染対策については、人一倍気を付けなければならないことから、コロナ禍での介護という勉強会を開催することになりました。参加者の方からは、大変参考になったので家でも実践していきたいとの声を聞かせていただきました。今後も参加者の立場になって、お役に立てる勉強会を開催していきたいと思います。

茅広江住民自治協議会

詳細情報

主催	茅広江住民自治協議会
助成金の種類	在宅介護者のつどい
開催日	令和3年7月10日
参加人数	20人（うちスタッフ 3人）

コロナ禍でも！ 私たちの地域でこんな活動をしました！

とくわっ子まつり(徳和地区)

ば 場

子どもたちに「**喜んでもらいたい！**」・「**楽しんでもらいたい**」という目的で開催され、今回初めての試みでした。
当日は約４００名の方が来場し、大盛り上がりでした。
地域の方、学生さんなど、スタッフの皆さんの**あたたかい気持ち**が詰まったイベントでした!











コロナ禍での工夫

- **手指消毒・換気を行いました。**
- **受付にて参加者の確認をしました。**
- **スタッフの名札のヒミツ**
  空間除菌ストラップを名札として使用しました！
- **下駄箱にて外靴の管理**
  番号札で何名の方が館内を利用されているか分かるようになっています。
- **順番に並びたくなる仕掛け**
  床には徳和住民自治協議会のキャラクターである『とくわっ子』がいます。

主催者より

コロナ禍での開催ということもあり、いろいろな制限のある中、スタッフやお越しいただいた皆様のご協力のもと無事開催できました。多くの方々のご協力のおかげで、たくさんの子ども達の元気な声や笑顔に、私たちも元気をいただきました。

徳和住民自治協議会

詳細情報

主催	徳和住民自治協議会
助成金の種類	地域福祉教育活動
開催日	令和3年11月14日
参加人数	約600人（うちスタッフ 64人 ボランティア含む）

コロナ禍でも！
私たちの地域でこんな活動をしました！

場（ば）

花岡地区　在宅介護者の集い

花岡地区では毎年、『在宅介護者の集い』を開催しています。
この集いは在宅介護されている方が、日頃の悩みや苦労等の問題を出し合ったり、補助制度等を活用している方の話を聞いたりする等、意見交換の場としています。
また、介護の負担を軽減することを目的に、介護サービスについて学んだり、介護用品の安全且つ有効な実技体験をしたりする等、内容は時世を考え、開催しています。

講話の様子



コロナ禍での開催について

令和２年度は松阪市社会福祉協議会　在宅福祉サービス課　宮下るり子看護師より『コロナ禍でも、安心して介護ができるあり方』というテーマで話を聞かせていただきました。例年、この集いでお渡ししている弁当は取止め、感染防止用品をお渡ししました。
令和３年度は新型コロナウイルスの感染が、一時減少した時期がありました。しかし、年末から再び感染者が拡大し、現在も高止まりしていることから、今年度は集まりを中止し、民生児童委員が在宅介護者を訪問し、困りごと等を聞いたり、相談に乗ったりしています。今年も対象者には感染防止用品をお届けしています。

主催者より

高齢者が増えると、様々な障害を有する方が増えてきます。それに伴い、在宅介護者も増え、介護の負担も大きくなるものと考えます。そこで、従来の「寝たきりの方を介護されている方」のみを対象としてきた集いも、「認知症や重度の障害があり、常に目を離せない状況にある方を介護されている方」も対象にして、それぞれの介護者に寄り添った集いの場を設定していきたいと思っています。

花岡地区福祉会

【詳細情報】

主催	**花岡地区福祉会**
助成金の種類	在宅介護者のつどい （事業費の一部に赤い羽根共同募金配分金を充当）
開催日	令和2年：令和3年3月15日（月）⇒講話のみ実施 令和3年：令和4年3月～4月　⇒感染防止用品を配布
参加人数	令和2年度：29名（うち地区福祉会役員8名） 令和3年度：対象者人数を調査中

コロナ禍の中、地域でこんな活動をしました！

ひと 人 ネット

大河内地区　福祉交流会

大河内小学校児童・大河内保育園園児と地区内の高齢者施設で交流する「福祉交流会」を行いました。コロナ以前は施設を訪問し、子どもたちと施設利用者が直接交流することで、お互いを思い合う『福祉の心』を地域で育んできました。
今年度は感染リスクを考慮し、「有料老人ホームリンダフロール」さん、「JA松阪ふれあいの里つじわら」さんとの間接的な交流となりましたが、子どもたちは楽しみながらプレゼントを作っていました！





コロナ禍で工夫したこと

コロナ禍により、高齢者施設への立ち入りが制限されている中、これまで継続してきた交流を何らかの形で続けられないか、検討を行いました。
結果、検温・手指消毒等の感染対策を行い、住民自治協議会の役員が代わりに子どもたちが育てたお花と絵手紙やメッセージを施設へ届けることで、間接的な交流を行うこととしました。

【主催者より】
コロナ禍で直接顔を合わせることはできなかったが、絵手紙等で子どもたちの気持ちを伝えることができて良かった。

大河内地区住民自治協議会



詳細情報

主催	大河内地区住民自治協議会
助成金の種類	地域福祉教育活動
開催日	令和3年12月22日（水）大河内小学校 6年生から 令和4年 2月16日（水）大河内保育園 園児から
参加人数	6名（役員4名、施設スタッフ2名）＋ 小学校児童、保育園園児